

2021年度（2022年3月）卒業アンケート結果について

2022年9月26日

教育支援部長

2022年3月卒業生144名に対して125名の回答（86.8%）であった。以下、設問ごとにその分析を付す。回答結果については最後に一覧表を掲載する。

I 専修言語について

回答結果には、現代英語学科が79名、国際コミュニケーション学科が46名となっている。現代英語学科の学生で英語以外の言語を学んだ学生数は71名の回答だが、この設問は複数回答が可能であるため、そのままの人数ではないと思われるが、79名の学生のうち一定数は2言語の学習をしているものと思われる。ただし、国際コミュニケーション学科の学生の英語履修数が少ないことは看過できない。できるだけ2つの言語を修得して欲しいという本学側からの要請を今後進めてためには、対策が必要であろう。

しかし、実際に2つ目の言語を学んでいる学生の多くは、4年生になるまで学修を継続していることがわかる。通常、1年間（2学期間）の学修でやめてしまう学生が多いが、一定数はさらに学修を続けている。これは本学の理念に加え、NUFS 海外派遣留学の効果があると思われる。というのも、2カ国留学あるいは2言語留学を推奨している効果から、例えば現代英語学科の学生が英語圏以外に1年あるいは半年留学しているためである。今後もさらにこのような学生が増えるよう、対応をしていかねばならない。

最後に研究プログラムについてであるが、そもそも学生の中に自分がどのプログラムを中心に学修していたのかを理解していない人が多くいることが問題であると思われる。

II 教育課程について

このカテゴリーには5つの設問が用意されているが、いずれも肯定的な回答が多い。ほとんどの学生が「①そう思う」あるいは「②ある程度そう思う」と回答してくれており、十分に自己評価であるが高い数値を示しているといえる。秋学期のアンケートと比較した場合、数値は少し低めに出ているが、回答者数が多いことがその主因であると思われ、全体的には大きな問題はないと考える。

しかし、「④の思わない」にも数件の回答があることを無視はできないだろう。とはいえ、このアンケートからはその内容がつまびらかではないので、学生の在学中に意見を聴取する対応を強める必要がある。

Ⅲ 大学生活について

5つある設問のいずれに対しても好意的な回答が多い。「①そう思う」と「②ある程度そう思う」を合算すると、全体の9割前後であり、全体的に肯定的であると考えてよいだろう。これは小規模な本学において様々な交流が可能であることに起因すると思われるが、そうした中でも「④そう思わない」と回答している学生もいることは事実であり、対応は必要であろう。例年最後の設問にある大学のサポートへの回答をより肯定的なものにする努力が重要である。

Ⅳ 自由回答について

回答数は59であり、全体のおよそ半数に及んでいる。そのすべてが大学に対して好意的な回答であり、教職員に対する謝辞が多い。これは大変にありがたいことであり、本学のスタッフ一同の努力の賜物であると付記しておきたい。

ただ1件だけ、自分の必要としている研究用のジャーナルがなかったことを指摘した学生がいたが、この点についての対応として普段の学生との対話の中から学生のニーズを引き出すことは重要であり、できる限りの対応が可能となるよう検討していきたい。

Ⅴ 最後に

アンケートの回答結果を見る限り、卒業生は十分に満足してくれていると自負する。何度も述べているように9月卒業生は留学生が多いため、3月卒業生のアンケート結果とは若干異なる部分もあるが、全体的には好意的な印象を大学に持ってくれていることには変わりない。しかしながら、さらに満足してもらえるような環境整備のために教職員一同のさらなる努力を期待する意味でも、この分析結果がその一助なることを願う。

以上